

第3回 外秩父トレイルラン43 感想記

半戸 明史

去る5月10日の日曜日、埼玉県寄居町から東秩父村、ときがわ町を越え、越生町までの山間部43キロを、10時間以内に走るトレイルレース大会「外秩父トレイル43K」に参加してきた。

とはいっても、今回は走る側ではなくボランティアとして。ランナーをもてなす側、運営の手伝いとしての参加である。

【起床～スタート】

ボランティアの朝は早い。前日の酒を控えて朝に備える必要がある。

4時50分 起床

5時20分 出発

5時40分 始発乗車

6時10分 現地到着

ざっとこんなスケジュールだ。しかし現実かというと、、、

5時20分00秒 起床

5時20分10秒 現実逃避

5時20分20秒 音速で準備

5時25分00秒 光速で車運転

5時40分00秒 始発乗車

朝食を摂らず、愛猫のすりすり攻撃を全力シカトし、支度を5分で終わらせた代償は、前日履いた短パン、パジャマで着ていたTシャツ（参加賞）、寝ぐせの付いた髪という外見に、確実に爪跡を残していた。が、そんなことは他人には分かり得ないことであるので、気にしない。1時間に1本しかない八高線に乗り遅れ、集合時間に遅れるほうが問題なのである。

今回のミッションは「全エイドを回り、撤収の手伝いをしつつ全てのゴミを回収すること」

これだけ聞くと、とても地味～な印象しかないのだけれど、これが思いもよらぬ素敵な出会いの連続となったのだ。



【号砲直後。ゲートを通過する必要はないが、私ならあえて通過する】

【第1エイド（小林みかん園 6.9k）～第3エイド（秩父高原牧場 16.5k）】

この日の気候は晴天ではあるけれど、温度、湿度もそう高くなく、ピクニック日和。もっとも走るには幾分暑く、山の中は風が吹かないので、熱中症が心配される。また、水分を多めに摂ることによる補給物資の不足（山なのでコンビニも水場もない）が懸念される場所である。

が、皆さん速い！エイド撤収時刻の数十分前に全員通過、飲料水の供給も想定外の6割に満たないという、いい意味で裏切られる結果となった。リタイア寸前のような、なんで参加したの？トレーニングしなかったの？と哀れみを覚えるランナーなど一人もいない。

ゴミも少なく、むしろ大量に残った未開封のペットボトル、補給食をどーしたものか？と悩みをかかえることは想定外であった。

「お稲荷さん全部食べてって！」と言われましてギャル曽根でも断るレベルで残ってるし、、、

「こんなに食べたら体重増えて下山することになるなー（笑）」「先生！（救急救命の）今日は皆さん鍛えてるみたいで、救急の必要なさそうですね！」などとボラ仲間と談笑したり、まあ、食べ物もったいないけれど、良い意味での悩みとなっていた。生命的危機に関して。

～～～

最後尾から

ピンクネコ「腹減ったwwwうは！おいなりさんウマー！wwwもつとwww」

サル「おれももう1っこ！やべwwwとまらねーwww」

～～～

このふたり、絶対に体重増えて下山するな、、、



【第1エイド ウォーミングアップお疲れー！の掛け声に苦笑いするランナーたち】



【不審者 2 人組み。第 3 エイドにてパシャリ】

【第 4 エイド（定峰峠 21.8 k）～第 5 エイド（大野峠 27 k）】

第 1 関門（13 時）となる定峰峠では、私の目の前で 3 名がリタイアすることとなった。

私「ここをひたすら道なりにいけばバス停あるよ。40 分後に次のバスが出るけど、走れないと 1 時間かかるかな。。。 （1 日 9 本）」

ランナー「そうですか、、、」

仕方ない。慣れない山の 20 キロはフルマラソンより遥かにきつい。気力体力の限界を迎えて、さらに 20 k 走らなくてははいけない現実に勝てるわけもない。回収車を走らせるわけでもないので、心の折れた方には歩けるうちに下山していただくのが正解だろう。

関門時間前後に、スーパード登場。スーパードなので、当然最終ランナーと一緒にいる。聞くとところによると、最終ランナーは足を痛めたらしく、ここでリタイアを考えているとのこと。定峰峠でリタイアしても、白石峠でリタイアしても、エスケープルートはほぼ一緒なので、どうせなら関門制限上等で次で考えろと悪魔のささやき。本当はいけないのだけれど、超人スーパードが 2 人付いていることと、天邪鬼な私の性格が邪魔をして、つい。

スーパードと最後のランナーを見送り、団子の串で破れそうなゴミ袋を処理して、撤収作業を開始。ここで、まさかのルート間違いしたランナー登場（関門通過後、エスケープルートに向かっていた）。まだ走りたそうな顔をしていたが、すでにスーパードは出発した後。

関門間に合ったランナーでもスーパードのいないところを走らせるのは危険。出来ない。

スーパード何分前にスタートしたっけ？

数日前に川の道走って疲労してるし、もしかしたら追いつける？

道迷いランナーは屈強山男のボランティアさんに任せて、とりあえず追いかけた。全力スプリント。が、見えない。心臓限界。追いつけるイメージがわからない。このまま行くと、地獄の激坂が待っている。諦める？

諦めよう。疲れるの嫌いだし。

と思っはみたものの、登った労力が無駄になるので激坂階段までは行くことにした。気持ちを入れ直して1分、ピンクの影発見！街の中では通報レベルだが、山の中での目標物としてはこの上なく優秀。

状況を告げると、到着を待って連れいていくとのこと。こうしてまたひとり地獄に送り込んだわけだが、後悔はしていない。リタイアして後悔するなら、地獄に突き落とされて後悔したほうが数倍マシだろう、という老婆心である。



【大野峠。登りはここまでと言っても誰も信じてくれない。ウソだから信じてくなくてもいいけど】

【第6エイド（野末張 34.3k）】

野末張までの道すがら、同乗していたボラ仲間が、歩いているランナーたちにしきりにエールを送っていた。

私「やっぱり野郎の応援じゃあ、走ろうとしないですね。これがかわいい女の娘の応援だったら、視界から消えるまでは走りますよ、男はバカだから（笑）」

ボラ仲間「じゃあ、来年は学生さんたちにウグイス嬢やらしてもらおう！（笑）」

ランナーとは裏腹に、ボランティアは平和である。

エイド撤収時刻より早い時刻にスーパーの一人が到着。聞くと、定峰峠で道間違いをしたランナーがリタイアしたので、車で搬送していった。ついでに送ってもらってワープしてここまで来た。

野末張でもまた、ゴールにたどり着けないランナーが生まれてしまった。彼もまた下りを歩む力をなくし、私が車でゴールまで搬送することとなった。車中でリタイアした男性をなぐさめる意味で会話をした。

私「トレイルの大会は初めてですか？」

ランナー「初めてです。でも、山登りとかはたまにしてみましたし、全然苦しくなかったけど、足が、、、」

私「筋力体力に自信のある男は、自分では余裕と思っている、知らずに無理をして、距離が長いとツケが回ってくるんですよ。

女性は逆に自分の力を過小評価するから、出来ないと言いはっても、完走しちゃう」

私「まあね、人間は一度体験した痛みは耐えられるようになるからね、3ヵ月後にこのコース走ったら、簡単にゴールできちゃうよ。

いや本当に」

私「ああ、そうだ、、、明日以降、今までに経験したことない筋肉痛になるから覚悟した方がいいね（笑）」

ランナー「マジですか！仕事どうしよう、今日、なにかしたほうがいい対策ありますか？」

私「ん————、神様にお祈りとか？」

偉そうに話しているが、2年前、この場所でリタイアしたことは彼には内緒である。



【鷹。Hawk。かつこいい。みんなテンション上がった】

【最終エイド（大満 39.2 k）】

リタイアランナーの搬送もあって、最終関門に到着したのは関門時刻の17時手前。大方のランナーたちは既に通過し、エイドは撤収作業に入ろうとしているところだった。前エイドをぎりぎり通過したランナーたちが数名、青色吐息でたどり着く。エイド毎にもうダメ詐欺をくり返していた女性も、なんとか時間内にたどり着く。

制限時間を過ぎてても、まだスーパースターが到着しない。数分過ぎたところで、スーパースターとともに最終ランナーがやってきた。

ここでリタイアだけれど、

- ①下道でひたすら歩いてゴール
- ②バスに乗って途中から徒歩
- ③コースを走って最短ルート

このどれを選択するかは、アナタの自由。リタイアでも、コースを歩くのがいちばん速いぜ？といったら、彼は③を選択した。スーパースターも彼に付いた。皆が通った道を見るも一興。

【ゴール（ゆうパーク越生 43k）】

ハイエースいっぱい詰め込んだゴミを、ゴミ回収所に放り込みゴールに向かう。制限時間まであとわずかだ。予定調和のように知人数名が余裕のゴール。やっぱりランナーで参加したいなと談笑しつつ、最終ランナーの到着をボランティア全員で待つ。

18時を2分過ぎ、もうダメ詐欺の女性が100万ドルの笑顔でゴール。試走会でへろへろだった人が、よく完走できたもんだと、みな祝福を受ける。なぜあと2分が削れなかったのか、なんて野暮なことを口にする余地などない場面だ。

それにしても、スーパーがまだ帰ってこない。最終ランナーがまだいるということだ。撤収作業が始まる中、「あと5分でゴール！」の声がコースから聞こえる。日が落ち、冷たい風が吹くゴールの前で、皆が「遅いぞ武蔵！」と待ち続けること30分、林の中からライトの光が見えた！

「サルとネコお供にして旗持ってるし、桃太郎みたいだな（笑）」

「間に合っていないのにいちばん見事な凱旋だ（笑）」

ゴールゲートが撤収された後、皆で作った不思議な祝福のアーチをくぐり、最終ランナーがゴールを迎えたのは、制限時間から45分遅れの出来事であった。



【タイム以外はパーフェクトなゴール】



【これが敗者のくぐったアーチ。贅沢極まりない】

【ボランティアの学生さんたちにお礼】

ボランティアの学生さん、強制的に狩り出されてご苦労さまでした。あなたたちの素敵な笑顔でランナー、ボランティアのオッサン&お姉様一同癒されました。

【雑感 参加されたランナーの皆様方へ】

- ・その見た目からネタに使いましたが、今回のピンクパンサーとサルを着ぐるみスーパーのお二人は、ウルトラマラソンの世界では超絶有名人です。彼らのような超人たちがスーパーをやっているから、成り立つレースもあるのです。
- ・ボランティアは文字どおり「自発的奉仕」です。なので、彼らには最大限の敬意を払って、レースに参加しなければ失礼だし、彼らの反感を買い続ければ今後レース開催がなりたたなくなることを、すべてのランナー達は強く認識すべきです。
- ・すべてのランナー達は、「レースを営利目的で行おうとしたら、参加費は数倍に跳ね上がる」という事実を知っておくといいでしょ。道迷い？ エイドの不備？ 係りの人が気が利かない？ 気にしてはいけません。我々ランナーは、お金を払ってコースとエイドを用意していただいて、走らせてもらっている立場だということを忘れてはならないのです。ルートを開拓しながら一人で走るという選択肢もあるのですから。
- ・制限時間を過ぎても毎回祝福されると思ったら大間違い。リタイア後の処理も自己責任。ランナーなら、いずれも今回が特例であると心得るべし。日々是訓練。

とまあ、私はボランティアをとおして裏方の苦勞を垣間見たわけですが、ランナー側の気遣いも、気持ちのよい大会を作っていくうえで大切なファクターなのだろう（当然参加する側にも恩恵がある）、と強く感じています。こんな感想をもつ人間も世の中にはいるのだと、認識していただければ幸いです。

ちなみに私はすべてのエイドで食べまくったので、体重ゲインしての下山に成功しています。おしまい。